

## 「IES-R」の使い方

### IES-R(Impact of Event Scale-Revised) 改訂出来事インパクト尺度日本語版

- \* IES-R は旧 IES (Horowitz et al, 1979) の改訂版として、米国の Weiss らが開発した心的外傷性ストレス症状を測定するための自記式質問紙である。旧 IES は侵入症状 7 項目、回避症状 8 項目の計 15 項目より構成されているが、IES-R は過覚醒症状項目を追加し計 22 項目より構成されている。IES-R 日本語版は集団災害から個別被害まで、幅広い種類の心的外傷体験曝露者の症状測定が可能であり、横断調査、症状経過観察、スクリーニング目的などに、すでに広く使用されている。
- \* 使用法 「教示」の空欄部分(下線部)に当該の外傷的出来事(例:地震、事件被害、事故)を記入し配布する。
- \* 採点法 各選択肢の得点 0-4 点を合計し、尺度全体ないし下位尺度ごとの得点とする。
- \* 下位尺度構成は次のとおりである(下記 Weiss 論文参照)。

侵入症状 Intrusion	(8 項目)	; 1, 2, 3, 6, 9, 14, 16, 20
回避症状 Avoidance	(8 項目)	; 5, 7, 8, 11, 12, 13, 17, 22
過覚醒症状 Hyperarousal	(6 項目)	; 4, 10, 15, 18, 19, 21
- \* 再テスト信頼性: 2 週間後の再テスト (N=114) スピアマン順位相関係数  $r=.86(p=0.0001)$
- \* 内部一貫性 (4 集団:工場労働者、阪神震災、毒物混入事件、地下鉄サリン事件被害者)

Cronbach's $\alpha$ 係数	=.92-.95 (Total) ,	=.88-.91 (Intrusion)
	=.81-.90 (Avoidance) ,	=.80-.86 (Hyperarousal)
- \* カットオフ - 合計得点 24/25 (PTSD+partial PTSD のスクリーニング目的)

早期(毒物混入事件)	感度=.89, 特異性=.93, 陽性的中率=.80, 陰性的中率=.96
長期(阪神淡路震災)	感度=.75, 特異性=.71, 陽性的中率=.44, 陰性的中率=.90

この調査はあくまでもストレス症状を調べるものであり、診断をするものではない。  
診断及び治療が必要な場合は、精神科機関を紹介する。

**PTSD 症状の高い人をスクリーニングする目的では、25点以上を要支援者とする。**

#### \* 参考文献:

- > Asukai, N., Kato, H., Kawamura, N., Im, Y., Yamamoto, K., Kishimoto, J., Miyake, Y., Nishizono-Maher, A. :Reliability and validity of the Japanese-Language version of the Impact of Event Scale-Revised(IES-R-J):Four Studies on different traumatic events. *The Journal of Nervous and Mental Disease* 190:175-182, 2002.
- > Weiss, D. S. :The Impact of Event Scale-Revised. In:Wilson, J. P., Keane T. M. eds., *Assessing psychological trauma and PTSD(Second Edition)*. The Guilford Press, New York, pp168-189,2004